



北斗句会 三月定例会（六日 偕行社） 兼題「春」「梅」

五十音順 特は特選 石田きよし選

春一番野辺に恋する仁王尊

大崎石州

癒さるる京の言の葉ひなまつり

太田黒幸風

美術展の余韻と帰る春の風

大森康政

荒々しされど気の済む春一番

竹内雲泉

記念艦みかさ立つや鳥雲に

田中資凡

特 好日や杖を放ちて青き踏む

長池豆陽

特 春めくや茶席の菓子淡き紅

深見十万

特 逆光の礫となりて初雲雀

藤田紀潮

川沿ひの梅の香の呼ぶ盛りかな

宮下ひかる

梅が香や久しき友の便り来る

森田光彦

草陰の踏まれさうなる露の臺

山縣秀雄

友逝きてメンバー足りぬ春の雪

吉岡誠山



鉢の梅連れ合ひといふ他人かな

石田きよし